

# 保 育 奉 公

## 大 東 亞 戰 爭 必 勝 完 遂

明治天皇御製

幼稚園

うちつれて園生にあそぶうなの子は學ぶとなしにも學ぶらむ

明治天皇の御製に此の御題を謹誦し得ることは、われら幼稚園を御奉公の職域といたすものにさり、如何に有り難いことであらう。明治三十九年の御製を承はるだけで、さういふ御折りの御詠かは存じよらぬが、貴き御感興を、幼稚園に遊ぶ幼児らの上に垂れさせられての御詞藻こそ、まことに忝ない極みである。

しかも亦、たゞ幼稚園のありさまを敍し給へるばかりでなく、此の教育の本質の中心を、畏くもまさしく教へさせ給ふてゐるのである。學ぶとなしにも學ぶらむ。幼稚園を、たゞ戯れ遊ぶところのみ見て、もの學びしてゐることを悟らぬものもまだ多い。もの學ぶとは教育されてゐることである。その教育が教育を受けてゐることも知らず受けられてゐるさういふことを知らぬものに至つては更に多い。御製は、この幼稚園の要諦第一義を、はつきり捉へさせられ、はつきり示させ給ふてあるのである。いつの世か、幼稚園の教育を歌ふてこれに過ぐるものがあらうか。

徒に空しく遊ばせてはならぬ。しつかり教育しなければならぬ。しかも、教育してゐるのであるが、教育されてゐるさういふことを幼児に意識させてはならぬ。被教育意識をもたせることなしの教育。かういふことした言葉を、われらの保育學では常に申すのであるが、御製は、そこを何んぞすらくさよみ出でさせられてゐることである。理によらぬ幼稚園の性根のすなほさが、そのすなほさのまゝに、われらに感ぜしめられてゐる。學ぶとなしに學ぶ幼児である。教ふるとなしに教へ得るわれらでなくてはならぬとも、美しきまごころの中に、すらくさ教へさせ給ふてあるのである。